

令和2年度 学校関係者評価書

日向市立財光寺小学校

	観点	評価項目	学校による結果分析と対応策	コメント
学校経営スローガンとの関連	一人一人を大切に する学校 学校 自己評価 (4.0) 学校運営 協議会委 員評価 (4.0)	楽しい学校 質問～児童① 保護者①	<p>児童の実態を把握し、気になる児童に対する情報を全職員で共有しながら指導や支援を行ってきた。とくに、不登校傾向の児童には、担任だけでなく、管理職や養護教諭、専科等職員が積極的に関わりながら、児童や保護者に対して細やかな対応をしてきた。その結果が、90%を超える肯定的な意見につながっていると考えられる。</p> <p>児童のがんばりを認め、誉めることに関しては、保護者や児童の実態が伴っていない部分もあることから、児童への称賛については、機会をとらえ継続していきたい。</p>	<p>○コロナ禍の学校への影響を心配していたが、アンケートで「学校が楽しい」という結果が多く安心した。</p> <p>○「学校は楽しい」の設問に、児童の4.9%があまり思わない、1.9%がぜんぜん思わないとあるのは少なくともない数字。その児童らがそう思う原因が判明していて対策がとられているとよい。</p>
		<p>児童のやる気を引き出す活動と児童の活躍に対する賞賛</p> <p>質問～児童② ～保護者②</p>	<p>【改善策または継続策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気になる児童に関しては、職員全体で共通理解を図りながら、組織的に対応する。さらに、スクールソーシャルワーカーなどの関係機関等や地域との一層の連携を図っていく。 ・一人一人の児童をしっかりと見つけ、児童を称賛する機会を増やすとともに、授業の様子や児童の変容について、通信やホームページでの積極的な発信と報告の仕方の工夫を行っていく。 ・学習内容がわかることで「学校が楽しい」と思えるように、授業の工夫を行うとともに、児童ががんばっている時やできた時の姿をタイミングよく称賛する。 ・「誉めるべき所は誉める」「叱るべき所は叱る」といったメリハリのある指導を年間を通して継続していく。 	<p>○三位一体となって、対応できていると思う。</p> <p>○このコロナ禍の中、感染予防やいじめのないように細心の注意をさせていただき、本当によかったと感じている。</p> <p>○通学途中でけがをした児童に対する、職員の対応が早いことに感心した。</p> <p>○様々な先生やスクールソーシャルワーカーが関わっていてありがたい。</p> <p>○各家庭ではなかなか難しいところを、先生方は本当にしっかり対応してくれていると思う。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の流行に振り回されたが、児童らの登下校の様子を見ると、明るく元気いっぱい、従前と変わらずに学校生活が送れているように感じた。</p> <p>○児童への賞賛について、アンケートの結果を見れば、双方80%以上肯定的であるので、学校側の指導は、今後も変わらず継続してやってほしい。</p> <p>○今の時代、叱るのは難しいと思うが、メリハリをつけて「誉める」「しかる」をしていくのは良いと思う。</p>

	観点	評価項目	学校による結果分析と対応策	コメント
学校経営方針（１）との関連	学力の向上	わかる授業 指導の工夫 質問～児童③ ～保護者③	<p>TVが各学級に設置され、デジタル教科書や実物投影機等のICT（情報機器）も整備された。このICTを効果的に活用し、「わかる授業」の実践に向けて、日々の授業の中で指導方法の工夫改善に取り組んできた。また、家庭学習の充実に向けて、課題の与え方や内容の工夫等も行っているところである。</p> <p>しかしながら、「わかりやすい」と肯定的な回答が多かった児童とは対照的に、学習内容が「わかっていない」と感じている保護者が多いことが本集計結果からうかがえる。また、家庭学習の関わりが少ない家庭もある。</p> <p>【改善策または継続策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業のための教材研究や資料準備の時間を確保する。 次年度は、一人一端末が導入されるので、ICT（情報機器）を活用した授業づくり等に積極的に取り組む。 OJT（教師相互の学び合い）や相互授業参観等をおして、教職員の一層の授業力、指導技術の向上に努める。 花まる先生や地域の方々との協力を得ながら、授業支援や個別指導の充実を図っていく。 「家庭学習の在り方」について検討したり、その大切さや取組の工夫を保護者に伝えたりして、理解と協力を得る。 	<p>○なぜ勉強をするのかわかっていない児童がいるような気がする。やらされるのではなく、自分からすることが大事なような気がする。</p> <p>○これからコロナをはじめ、いろいろな私たちの見知らぬ禍いが日常生活を非日常にすることがある。そのことを考えてデジタル教科書やリモートでの活動を考える必要がある。</p> <p>○今年は、コロナで無理があったが、保護者に学校での授業の様子を見てもらうと保護者に理解してもらえと思う。</p> <p>○花まる先生を少しずつだが、体験して私自身理解できた。工夫して是非花まる先生を再開してほしい。</p> <p>○財光寺小は、ICTの活用を効果的にやっていると思う。一人一端末になっても心配より期待の方が大きい。</p> <p>○「授業がわかりやすい」と児童の評価は高いが、保護者は、さらにわかりやすく希望している。学校からの改善策をお願いしたい。さらに、宿題等についての保護者からの要望には答え、改善策をお願いしたい。</p>
	学校自己評価（3.6）	家庭学習の充実 質問～児童④ ～保護者④		
	学校運営協議会委員評価（3.8）			

	観点	評価項目	学校による結果分析と対応策	コメント
学校経営方針（２）との関連	豊かな心の育成	地域人材の活用と体験活動の重視 質問～児童⑤ ～保護者⑤	コロナ禍により、地域人材を活用したり、体験活動を実施したりすることが難しかった。読書については、肯定的な意見が保護者・児童ともに少なかった。本に触れる機会を増やしたり、家読のさせ方を工夫したりして、読書に対する児童・保護者の意識の向上を図ることが必要である。	○今、児童だけでなく保護者も活字離れがある。なかなか家読が拡大しないのは、学校だけでなく家庭に問題がある。
	学校自己評価（3.2）	「家読」（うちどく～家庭での読書）など読書指導の推進 質問～児童⑥ ～保護者⑥	いじめの防止については、いじめアンケート等による実態把握から、教育相談、いじめ対策委員会での情報共有、指導・観察・見届けというサイクルが確立され、学校全体で取り組むことができた。しかし、保護者は不安に感じている状況が本集計結果からうかがえる。	○読書通帳など、読むきっかけ作りはやってきたが、読みたい本、面白い本が少ないのかもしれない。読みたい本の調査に加えて学校・地域・PTAが連携し、また、市内の学校が協力して、本を増やす取組ができるとよい。
	学校運営協議会委員評価（3.6）	児童の人間関係づくりといじめの未然防止 質問～児童⑦ ～保護者⑦	学校でのあいさつ・会釈についてはよくなってきているが、地域でのあいさつがもう少しである。	○「家読」「読書」については、アンケートの評価が低い。昨年度も同じようなアンケート結果であった。啓発活動を工夫する等、取り組み方法の見直しを是非お願いしたい。
		あいさつ等の望ましい態度の育成 質問～児童⑧ ～保護者⑧	【改善策または継続策】 ・体験活動に関しては中止ではなく、可能な限り工夫して行い、質の確保、向上を目指す。 ・児童が読みたい本を調査して注文したり、本を借りる機会を増やしたりして、読書への児童の関心を高める。 ・家読で読んだ本や保護者へのおすすめの本の紹介、市立図書館との連携など、読書推進のための啓発活動を工夫するとともに、家読への取組方法を見直し、改善を図る。	○コロナ禍で難しいことも多かったと思うが、元気に遊んでいる子供達を見ると安心した。
		規範意識の向上 質問～児童⑨ ～保護者⑨	・毎月はいじめアンケートをもとに日々気になる児童の観察を行うとともに、いじめを見抜く教師の目、絶対に許さないという学校全体の雰囲気醸成されるような研修、対策会議を継続的に実施していく。 ・全職員、保護者、地域を巻き込んだ「あいさつ運動」を推進する手立てを工夫する。 ・問題行動に関しては早期解決に心がけるとともに、通信や安心安全メール等を通して情報を発信し、児童・保護者への規範意識の向上を図る。	○あいさつなどは、よくしていると思う。 ○このごろ積極的に大きな声であいさつできる上級生が少なくなっている。

	観点	評価項目	学校による結果分析と対応策	コメント	
学校経営方針（3）との関連	体力の向上 学校自己評価（3.4） 学校運営協議会委員評価（3.4）	体力づくりの推進 質問～児童⑩ ～保護者⑩	体力づくりについては、コロナ禍の影響で、5月に予定していた体力テストを実施できず、実態を把握することができなかった。外遊びについては学校をあげて推奨しており、昼休みにはたくさんの児童が外遊びを楽しんでいた。 マスクの着用、消毒、室内の換気等、新型コロナウイルス感染症への対応を積極的に行った。また、基本的な生活習慣に関しては、保護者の協力もあり、ある程度徹底することができた。 食に関する指導については、市内の栄養教諭との連携を図った食育授業を各学年で実施することができた。	○体力については、今回はコロナでどうしようもないと思う。 ○話を聞く姿勢、文字を書く時の姿勢がもう少しである。具体的な指導（ピン・ペタ・グーの指導、鉛筆の正しい持ち方の指導）の徹底をお願いしたい。 ○通学時、みんなコロナ対策をきちんとしていてよかったと思う。	
		健康管理と基本的な生活習慣の定着 質問～児童⑪ ～保護者⑪	食に関する指導の充実 質問～保護者⑫	食に関する指導については、市内の栄養教諭との連携を図った食育授業を各学年で実施することができた。 食物アレルギーの対応については、保護者に十分に伝わっていないことが本集計結果からうかがえる。 「メディアの使い方について、家庭でルールを決め、約束を守らせている」ことに関しては、否定的な意見が25%あった。携帯電話等を所持している児童が多いので、各家庭への啓発が必要である。	○児童アンケートの毎日の歯磨きや朝ご飯の肯定率が86.5%である。残りの13.5%が心配。朝ご飯を食べない、食べたくない、食べられない、理由は詳しくわからないが、将来に関わる大事なことなので、対策が必要である。
		食に関する指導の充実 質問～保護者⑫	メディア・コントロール 質問～児童⑫ ～保護者⑬	【改善策または継続策】 ・コロナ禍においても、体力づくりに向けて、工夫した取組を実施していく。 ・外部講師と連携しての食育授業を継続するとともに、食物アレルギー対応と併せて、その取組を保護者に積極的に発信していく。 ・メディアの利用について、保護者への啓発を含めた携帯スマホ教室等の実施を計画する。また、メディア・コントロールについては、通信等で積極的に保護者への啓発を図っていく。	○デジタルもいいが、手や体を使ったアナログも大事なので、工作キットや楽器などを趣味として楽しめる工夫があるとよい。 ○メディアの使い方について家庭でのルールが、定着されていない。 ○メディアコントロールについては、難しいとは思いますが、積極的な教育が必要だと思う。
		メディア・コントロール 質問～児童⑫ ～保護者⑬			

	観点	評価項目	学校による結果分析と対応策	コメント
学校経営方針（４）との関連	地域とともにある学校	保護者のPTAや地域での行事・活動への参加 質問～保護者⑭	本年度は、コロナ禍の影響により、予定していたPTAや地域での行事等が中止になり、学校・地域・家庭の連携が難しかった。PTA有志による平日の奉仕作業には、たくさんの保護者が参加してくださった。次年度の奉仕作業の在り方について、今後検討していく必要がある。	OPTA行事や学校行事（参観日等）、今回のコロナ禍を発想の転換と捉えて、少しでも保護者に負担をかけないように前向きにお願いしたい。また、給食費の口座引き落としについては、今後の方向性について情報発信していただきたい。
	学校自己評価（3.3）	児童の地域での行事・活動への参加 質問～児童⑬ ～保護者⑮	学校の取組やお知らせについては、文書に限らず、安心安全メールやホームページを通して、積極的に発信することができた。	○商店街としては、今年は何か一緒にできるといいなと思う。 ○地域コーディネーターのご尽力があり、子ども安全監視員の連携がよかった。
	学校運営協議会委員評価（3.4）	学校の情報発信 質問～保護者⑯	【改善策または継続策】 次年度は、一昨年度の反省を踏まえ、以下の点について力を入れていきたい。 ・地域との連携を図った授業を充実させるため、地域コーディネーターと協力して人材リストを作成する。 ・PTA総会他の保護者が集まる場面で、学校から発信すべきことや小中一貫教育、コミュニティ・スクールの意義、地域行事、PTA行事に参加することのよさやメリット等についてより積極的に発信していく。 ・本学校評価で出された保護者の意見、要望等について、PTA総会等できちんと学校からの回答を行い、信頼関係の構築につなげる。 ・学校行事やPTA行事、取組の精選と計画の改善を行いながら、保護者がより参加しやすいように工夫する。 ・学校ホームページや安心安全メールを活用しながら、学校からの情報発信の一層のICT化を図る。とくに、安心安全メールについては、効果的な活用を模索していく。	○子ども安全監視員や花まる先生との交流が短時間でもできたことはよかった。 ○本年度のアンケート結果でもう少しだった読書等については、しゃべり場等でみんなで解決策等を検討する必要がある。 ○学校は、今回のコロナだけでなく、今後もまた、何かしら謎のウィルスが発生してパンデミックに陥る事態を想定しておかなければならないだろうと考える。 ○コロナ禍による教育格差が生じないように、リモート授業やICTを駆使した授業を分け隔てなく児童らが参加できるよう計画していただきたい。 ○安心安全メールやホームページを通して、学校のことがよくわかった。 ○安心安全メールやホームページの情報発信は保護者間でも評判がよい。コロナ禍で縮小してしまっている地域での行事や広報と連携していけるとよい。